

1 県民の皆さんからの意見

本計画の策定に当たっては、多くの県民の方々に参加していただき、問題意識の共有を図りました。福島県総合計画審議会での議論、市町村との意見交換、県内各地で開催したワークショップや地域懇談会等を通じ、県民の皆さんから「ふくしまの将来の姿」についてたくさんの意見を頂きました。

総合計画審議会からの意見

【概要】

総合計画審議会は、県の総合的な計画に関する事項を調査審議するための知事の附属機関です。環境、福祉、産業、地域振興など各分野の学識経験者及び公募委員 29 名により構成されています。

【理念、考え方に関する意見】

- ・ 地方分散型の県づくり
- ・ 小規模自治体への対応
- ・ 全国の人から憧れられる福島県
- ・ 現場の住民や自治体の立場に立った具体策
- ・ 右肩上がりではなく現実を直視して下がるものは下がると言うべき
- ・ 地域の視点が大事。県土の各地に人がとどまれるような地域
- ・ 時には県のリーダーシップが必要であること
- ・ 未曾有の災害後、県民が地域で頑張っていることを大きな木にする
- ・ 一人一人の思いを大切にし、強みをみんなが認める地域社会
- ・ 「人を育む」「心の豊かさ」が欠かせない観点
- ・ 一人ぼっちにしない（包摂性のある）社会
- ・ 多様性、一人一人自分らしく輝ける
- ・ 自分の意見を言える（自己表現できる）社会
- ・ 普通の会社に就職して良かったと思える社会
- ・ AI、IoT の先に来る社会を想定しておく
- ・ 挑戦をサポートする人の場づくり、環境づくりが重要
- ・ 人とのつながりによる安心や支え合い、学び合いが大切

【具体の取組に関する意見】

- ・ 風評の払拭に向けた正確な情報発信の継続
- ・ 再生可能エネルギーの更なる研究・技術開発の促進
- ・ 結婚から子育てまで切れ目のない支援
- ・ 多様な出産・子育てへの支援
- ・ 医療・福祉では人材不足と偏在が課題
- ・ 産業振興と人材育成の連携した支援
- ・ 新技術に対応できる人材を育成することが大切
- ・ 働く意欲のある障がい者などのマンパワーの活用
- ・ 子どもの学習権保障、多様化する子どもへの対応

市町村からの意見

【概要】

総合計画の策定に当たり、県内市町村と意見交換を行いました。

- ・ 浜・中・会津の特長を活かした均衡ある発展
- ・ 地域、企業の魅力を知る特色ある教育
- ・ 子どもの地域への愛着醸成
- ・ 人材不足対策（若者定着、働く場所確保等）
- ・ 交流及び関係人口拡大、移住施策の推進
- ・ 県独自の誇りあるスローガンを
- ・ 広域的連携は重要な視点
- ・ 防災・減災対策の重要性
- ・ 高齢者対策（交通移動、介護対策）
- ・ 夢、希望、明るい未来のある県づくり
- ・ 農業振興（耕作放棄地、担い手確保等）
- ・ 人口減少を踏まえた施策の必要性
- ・ オール福島でのイノベ構想の進展
- ・ これからは女性と若者の視点が大事
- ・ 指導者を育てるための人材の育成
- ・ 在宅ワーク、プログラミング教育など、情報化・デジタル化
- ・ Society5.0につながる考えで人口減少を克服していく必要
- ・ 水害・凍霜害対策
- ・ 有害鳥獣対策は不可欠
- ・ 復興の進捗を踏まえた計画づくりと柔軟な見直し

対話型ワークショップの意見

【概要】

県内各地で本県の未来を担う小学生、中学生、高校生、大学生を対象に県民参加型ワークショップを開催しました。

実施期間：令和元（2019）年10月～令和2（2020）年1月

参加者数：合計176名（小学生11名、中学生15名、高校生96名、大学生54名）

テーマ：「将来も住み続けたい（住みたい）と思う福島県の未来の姿」

<小学生>

- ・外国人にも魅力的な県
- ・子どもがたくさんいる福島にする
- ・文化やスポーツを発展させ、いい福島にしたい
- ・風評被害に負けない県
- ・みんなが健康に住めるような町
- ・子どもや高齢者に優しい県になってほしい
- ・交通の便がもっとよくなってほしい
- ・いろいろな人が来てくれる、魅力的な町

<中学生>

- ・安全な暮らしができる福島県
- ・子育てがしやすい環境がある福島県
- ・他県に福島県のことを知ってもらい、もっと活気のある県
- ・交流が広がり理解が深まる
- ・教育環境が向上し子育てがしやすくなる
- ・元気な高齢者が活躍している
- ・世代を超えて交流できる福島にしたい

テーマ：「自分が思う福島の“たからもの”」

<高校生>

- ・豊かな自然（磐梯山、猪苗代湖、尾瀬）
- ・観光地（鶴ヶ城、アクアマリン、温泉地）
- ・特産品（果物（桃）、米、牛乳）
- ・伝統（漆器、赤ベコ、じゃんがら念仏踊り）
- ・県民風土（やさしい人柄、親切、偉人）
- ・文化・スポーツ（合唱、プロサッカー）

<大学生>

- ・人や方言の温かさ、元気な高齢者
- ・浜・中・会津の多様な人々・文化
- ・特産品（果物、日本酒、米、郷土料理）
- ・技術力のある県内企業、工業生産・技術力
- ・豊かな自然（四季ごとの景色）
- ・歴史、文化、芸術（合唱、吹奏楽、演劇等）

テーマ：「みんなの力で解決したいこと」

<高校生>

- ・震災復興、風評被害、少子高齢化、地球温暖化
- ・質の高い教育による学力向上、学習環境の充実
- ・福祉医療を含めた都市機能の充実
- ・増える災害への対策
- ・働く場所、職種の充実
- ・自然や農地の管理、活用

<大学生>

- ・情報発信不足、震災復興、風評払拭
- ・交通アクセスの改善、充実
- ・健康づくり（減塩取組等）
- ・第一次産業の活性化
- ・過疎地域の対策
- ・若者の人口流出抑制、地域の担い手不足解消

テーマ：「福島の未来をつくるために私たちができること・すべきこと」

<高校生>

- ・県について自分たちが理解を深め、福島の良さや正しい情報を SNS 等で発信する
- ・地域 PR の CM を高校生で作る
- ・新しい伝統をつくる
- ・地域イベントへの参加やボランティア活動
- ・県内就職、進学して地元を支える
- ・自然を大事に自然をアピール

<大学生>

- ・自分たちが地域への理解を深め魅力を情報発信
- ・子どもに向けた地域愛着形成の活動
- ・高齢者のケア、若者の集落での活動
- ・大学生目線による地元愛着を育むイベント開催
- ・県内大学生同士が魅力を発信するコミュニティを立ち上げる
- ・地域の担い手不足を補うボランティア活動

地域懇談会の意見

【概要】

県内7つの地域において、総合計画の策定に当たり、多様な立場の県民の方々と意見交換を行いました。実施期間：令和2（2020）年2月 参加者数：合計44名

<主な意見>

- ・技術を持った中小企業もあるのもったいない
- ・多様性が尊重された世の中となる施策が必要
- ・住む前の支援も重要だが、住んでからの環境整備も重要
- ・放射能の話から、次のステップに進んでいい時期だ
- ・「あるものを活かす」ということが大切
- ・外国人観光客（インバウンド）向けの環境整備が必要
- ・福島県内を東西につなぐ道路の一層の整備が必要
- ・医療の充実、特に病気となった場合の対策の充実
- ・子を育てる親世代が「ここに住んでいたい」と思える仕組みづくりが必要
- ・農業を担う若者を、様々な形で育成、探すことが課題である
- ・健康寿命は重要で、高齢者がボランティア活動など生きがいを持てる地域づくりが必要
- ・企業を継続させるためには、次の人へ引き継ぐ担い手育成という観点も若いうちから重要
- ・子どもたちに地域の魅力を伝えることが重要
- ・災害が起きる前から予測も踏まえて備えることが大切

県政世論調査・アンケート

調査名：県政世論調査（どのような県になってほしいか）

調査対象：満15歳以上の男女個人

配布数：1,300人 回収数：618人（回答率47.5%）

調査期間：令和元（2019）年7月24日～8月13日

<主な意見>

- ・福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいのある人が大切にされる
- ・豊かな自然環境が守られている
- ・教育環境が整い、子どもたちをのびのび育てることができる
- ・災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる
- ・快適な生活環境の中で暮らせる
- ・産業が盛んで、働く場に恵まれている

調査名：少子化・子育てに関する県民意識調査

（少子化対策や子育て支援として、どのようなことが必要か）

調査対象：福島県内市町村に住み票がある

①子どもがいない方（18歳未満の子どもがいない20～60歳未満の方）

②子どもがいる方（未就学児童、小学生、中学生以上の保護者の方）

配布数：9,000人 回収数：2,486人（回答率27.6%）

調査期間：令和元（2019）年5月16日～6月5日

<主な意見>

- ・県内で就職進学する魅力が必要
- ・地域が一体となった世代を超えたふれ合い
- ・地元を知り故郷への誇りと愛着をもつ
- ・自然、伝統等体験による生きる力を育む
- ・いじめや社会的弱者への偏見、児童虐待をなくす
- ・保育士確保、保育士の質向上、保育施設整備
- ・広域的な病児保育体制づくり
- ・子育て相談しやすい窓口設置等の環境づくり
- ・育休取得推進や復職しやすい環境づくり
- ・障がい児への対応や安心して学べる環境づくり
- ・空き教室等を活用した放課後児童クラブの充実

調査名：高校生進路希望調査（福島県のこれからについて）

調査対象：県内の公立高校に通う高校2年生及び3年生

配布数：26,501人 回収数：12,507人（回答率47.2%）

調査期間：令和元（2019）年7月～9月

<主な意見>

- ・歴史の誇りが心を癒やし心の復興につながる
- ・避難解除により安心して暮らせる県
- ・都市部を広げず自然を大切に豊かに暮らせる県
- ・公共交通機関の発達が必要
- ・若い人向けの大型商業施設や遊ぶ場所が必要
- ・県産品の安全性を国内外PRで風評払拭
- ・若い世代が県産品を流通し魅力発信

コラム① ワークショップ参加者のその後をインタビュー！その1

令和元年度の対話型ワークショップ参加者（当時高校1年生）のうち、現在も高校在学中の2名に当時を振り返りながらお話を伺いました。

日 時：令和3年11月

参加者：県立白河実業高校3年 橋本さん、真岡さん

聞き手：復興・総合計画課 山田主幹

Q ワークショップに参加したきっかけを教えてください。

(2人) 当時2人とも生徒会に所属していて、生徒会の先生に声をかけてもらったのがきっかけです。各校1名ずつのところ、心細かったら2人でもいいよと言われ、2人で参加しました。

Q ワークショップではどんな事を話しましたか。

(真岡さん) 福島県の宝物や福島県が抱える課題、課題を解決するために自分に何ができるか、などを話しました。私は自分にできることとして、地域の方とコラボしてCMや動画を作成してはどうかという意見を発表しました。

(橋本さん) 他校の発表を聞いて、SDGsという言葉を知りました。

今では私たちもSDGsの推進に取り組んでおり、学校でも食べ残しを出さないように購買部のパンの残り個数をアナウンスしたり、休み時間に電気を消したりしています。

Q 新しい総合計画もSDGsもゴールは2030年です。どんな福島県になってほしいですか。

(橋本さん) 今よりも公園や遊べる所が増えて、子どもが住みやすい環境になって欲しいと思います。

(真岡さん) 人工的な県にはなって欲しくありません。福島県は人が温かいので、ロボットやAIだけが進みすぎない、人と人とのつながりが残っている県になるといいなと思います。



ご協力ありがとうございました！
(左から：橋本さん、真岡さん)

コラム② ワークショップ参加者のその後をインタビュー！その2

令和元年度の対話型ワークショップ参加者のうち、県職員になった3名に当時を振り返りながらお話を伺いました。

日 時：令和3年11月

参加者：市町村行政課 熊田さん（入庁2年目）、空港施設室 白石さん（入庁2年目）、

生活交通課 渡邊さん（入庁1年目）

聞き手：復興・総合計画課 山田主幹

Q ワークショップに参加したきっかけを教えてください。

(渡邊さん) 大学生の時、3人とも同じゼミで、ゼミの先生から勧められたのがきっかけです。私は当時3年生だったので、就職活動の参考になるかもしれないと思い参加しました。

Q 新しい総合計画の第一印象を教えてください。

(白石さん) 新型コロナウイルス感染症やデジタル変革など、最近の社会情勢もしっかりと反映されていると感じました。

(熊田さん) 総合計画というと堅いイメージでしたが、読み進めると県民の皆さんの声が必要な所に出てきていることが分かりました。

Q 総合計画をできるだけ多くの人に知ってもらうためにはどうすればいいと思いますか。

(熊田さん) まずは職員が知るきっかけとして、自分の担当業務と総合計画のつながりを踏まえながら

職員同士で意見交換する研修などがあると良いと思います。

(白石さん) 県でイベントを開催する時、そのイベントが計画のどの分野に関連しているのかを参加者に伝えていくと、関心を持ってくれる人が増えていくのではないのでしょうか。

(渡邊さん) 「総合計画を読もう」と呼びかけるよりも、SDGsを入口にすると県民の皆さんも親しみやすいのではないかと思います。



ご協力ありがとうございました！
(左から：渡邊さん、白石さん、熊田さん)